



12. つくる責任、つかう責任

地球環境に優しい「紙で作ったアートフラワー胡蝶蘭」の生産・販売を開始

—熊本地震をきっかけに誕生した女性活躍を支援するスーパーウーマンプロジェクト—

メディアデザイン研究科(KMD)の地域みらいプロジェクトとMICOHANA株式会社(<https://micohana.jp/>)は、経済産業省九州経済産業局デザイン経営ゼミを通じて2022年8月より事業化研究を続けていた、紙で作る「スーパーフラワー」を活用し、2024年度に「アートフラワー胡蝶蘭」を商品化しました。日本の折り紙の技術を活かし、高級紙を使った花を一つひとつ手作りで作り上げることで、品質が長期に変わらない地球環境に優しい贈り花を提供するプロジェクトです。リサイクル・リユースが可能な供給体制の構築により、生花の売れ残りや規格外品の廃棄問題を解決し、環境や社会に優しい循環を実現します。また、在宅の隙間時間を活用した生産を可能にすることで、子育て中の主婦など外出困難な方の就労機会創出にもつながります。普及啓発に向けて、この取り組みに賛同しプロジェクトに参画している株式会社キイストン(<https://www.keys.ne.jp/>)の飲食店のネットワークを活用し、開店お祝いなどでの活用を通じてさらなる改善と需要の拡大に向けた実証を開始しました。

三田キャンパス北別館竣工

2025年3月19日、旧通信省簡易保険局庁舎跡地の再開発プロジェクトの一環として位置付けられている三田キャンパス北別館の竣工式が執り行われました。北別館の外装には、国内最高水準の日射熱除去性能を持つペアガラスを採用しており、高効率の空調機器や、人感・昼光利用センサーによる照明制御などの導入により、高い省エネルギー性能を実現しています。内装には、慶應義塾が所有する学校林の一つである宮城県南三陸町のFSC認証林・志津川山林で伐採された杉材を製材・準不燃処理し、壁材などに利用しています。北別館での木材利用によるCO₂固定量は約14トンに達しており、デザイン上の工夫により、様々なサイズの杉板や端材を無駄なく使用しています。また、靱殻やヒノキの再利用素材、再生木のデッキ、杉の間伐材を粉碎・加工したサインボードを用いるなど、持続可能な社会に資する建築として、SDGsの理念を随所に反映しています。



「志津川山林」の杉を使用したウォールアート

プラスチック製文房具リサイクル活動

中等部は、2023年から「PILOT使用済みペン リサイクルプログラム」(<https://pilot-penrecycle.jp/#aboutProgram>)に参加しており、毎年11月の展覧会において、不要となったプラスチック製文房具の回収を行っています。2024年5月には、株式会社パイロットコーポレーション(<https://www.pilot.co.jp/>)による特別授業が実施され、回収したペンの分解、リサイクルボールペンの組み立て、万年筆の仕組みなどを学びました。また、江の島の海岸でマイクロプラスチックやその元となるごみ拾いを行い、海洋プラスチック問題への理解を深めています。

塾生会議プロジェクトの活動

塾生会議の提言を踏まえて提出された企画は、学内の審査委員会で審議され、採択されたものがプロジェクトとして稼働します。

ウォーターサーバープロジェクト

全キャンパスに設置された46台のウォーターサーバーの認知度・使用率を上げるため、2024年5月～6月に各キャンパスにおいて麦わらを配合したボトルの無料配布と、景品が当たるスタンプラリーを実施しました。

今後は、設置・管理を担う管財部や協生環境推進室と共に、利用のさらなる定着のため、公式SNSや大学の広報を活用した情報発信の強化や、設置場所ごとの利用率を分析し、より多くの人にとって便利な場所への再配置や追加設置などを検討していきます。



麦わら配合ボトルの無料配布

ごみ箱改革プロジェクト

「『ごみ箱改革』を起点に『持続可能な慶應義塾』を実現する」ことを目指し、「2050年までに慶應義塾のリサイクル率を100%にする」すなわち「ごみ箱の異物混入率を0%にし、ごみを資源として100%活用することで、慶應義塾内で資源の循環を達成する」をゴールに掲げているプロジェクトです。

2025年1月、可燃ごみとして捨てられていた割り箸を資源として回収すると同時に、可燃ごみの削減につなげるため、日吉キャンパスの学生食堂「グリーンスマルシェ」に使用済み割り箸の回収ボックスを設置しました。回収した割り箸は、段ボールに詰めて一般社団法人日本の森林のみらい(<https://japan-forest.com/>)に郵送し、割り箸リサイクルプロジェクトによって、紙として生まれ変わります。2025年1月14日～2月20日の期間で、約7400本(3700膳)を回収することができました。また、塾生会議×師岡小プロジェクト「探求活動—師岡小版SDGsを实践しよう!—」とのコラボイベントも実施し、慶應義塾内でのポスター制作事例を基に、SDGsの促進を慶應義塾内で終わらせず地域全体に広げることを目的として、師岡小学校6年生の児童と同じ目線でSDGsのポスター制作を行いました。



割り箸回収を呼び掛けるポスター



回収された割り箸

コンタクトケース回収プロジェクト

SDGsゴール12「つくる責任・つかう責任」とゴール14「海の豊かさを守ろう」を実現し、2030年までにプラスチックごみを20%削減することを目指すプロジェクトです。

独自のアンケート調査から、学生の約60%が使用していると想定されるコンタクトレンズに着目し、2024年12月18日、日吉キャンパスの5ヶ所にコンタクト空ケース回収ボックスを設置し、常時回収を可能にしました。また、2025年1月8日～1月9日、日吉キャンパス塾生会館前で、協賛企業である株式会社シード(<https://www.seed.co.jp/>)のクーポンや景品を用意したコンタクト空ケース回収イベントを開催し、計2841個を回収しました。

2025年度も管財部や協生環境推進室の支援の下、複数のキャンパスでの常設を予定しています。



コンタクト空ケース回収ボックス(画像左)